

● 本会の動き ●

☆女性技術者ネットワーク 報告☆

2022年9月15日

9月15日、第53回秋季大会において女性技術者ネットワークが開催されました。開催はオンラインでしたが、現地でもイベントを放映する部屋を設けていただきました。女性技術者ネットワークは、女性技術者・研究者・学生のネットワークづくりを目的とした会合です。今回の会合では、2名の女性研究者の講演が行われたのち、全体討論の時間を設けました。

初めの講演では、「高分子のミクロ相分離に基づく新材料開発」と題し、東京工業大学 准教授の斎藤礼子先生にご登壇いただきました。斎藤先生は、男女共同参画学協会連絡会（化学工学会も含め、科学技術系の約100の学協会が加盟している組織）に立ち上げる時期から関わられており、男女共同参画の実現のための活動をされてきました。先生が従事されている高分子微粒子の開発について、さまざまなサイズ、形、構造をどのように設計・生成するのか、そしてそれらの配列性といった物性について発表いただきました。そのほか、金属と高分子の新しい複合材料の力学特性についても説明いただき、ミルフィーユ構造体や微粒子の応用などについて参加者と議論されました。

次に、三菱ケミカル（株）の宮坂悦子氏に「企業における多様な人材の活躍支援の事例紹介」と題するご講演をいただきました。三菱ケミカルにおける多様な働き方推進のための各種制度についてご説明いただき、男性の育児休業取



図1 現地の様子(ハイブリット開催)

得促進や、場所に縛られない働き方推進のためにサテライトオフィスを設置されていることなどをお話しされました。質疑では、ご本人にとってテレワーク勤務制度がお子様の授業参観参加への負担軽減に特に役に立ったというお話や、制度の利用促進のためにライブイベントがある際（本人や配偶者の妊娠など）に上司を含めた面談の機会を設けるといった取り組みを説明いただきました。

最後の全体討論では、過去から現在までの男女参画の変化を振り返り、斎藤先生が学会に託児所を設けることが想像できなかった時代があったこと、そして改革はトップダウン的な働きかけによってもたらされ、ボトムアップでは厳しかったとお話しされました。男女共同参画の残る課題を解決するために、有効的なアプローチを具体的に考える必要があることに気づく機会となりました。

（天沢逸里（東京大学）・山内紀子（茨城大学））



図2 講演者の斎藤礼子先生



図3 講演者の宮坂悦子氏